澪標（みおつくし）

もう一つの医療費削減対策

見過ごされている錠剤包装シート誤飲事故

金　栄愛　株式会社ＮＰ医薬取締役

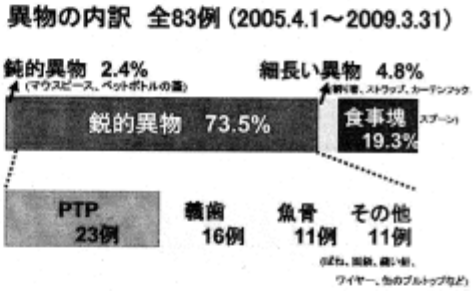
「２００７～13年までの7年間で、たった40件」

日本医療機能評価機構が発行する「医療安全情報」に記載されている、錠剤包装シート（ＰＴＰシート）誤飲事故の数です。医療機関においては、このような情報をスタッフが共有して医療事故防止に努めます。

もしこの数字が実情を表していない数字であったなら、効果的な注意喚起がなされていないと考えられます。

事実、消化器内視鏡専門医・救急医・耳鼻咽喉科医・内科医12人に対してここ最近聞き取り調査したところ、ほとんどが年間1件以上、多い方は3件以上、診察およびＰＴＰシート摘出処置を経験していると答えました。中には胃や腸にまで達して開腹手術を要した患者、飲んでしまったかもしれないと疑いだけで受診する患者など、状況はさまざまです。

そして、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科（10年）における消化器異物の症例報告では、05～09年の4年間で異物を取り出した83例のうち、23例がＰＴＰシートで最多であったと報告されています＝グラフ。



一医療機関でこれだけの数が存在するなら、現在誤飲事故発生件数として公表されている数は氷山の一角であり、この膨大な数の誤飲事故によって多大な医療費が使われていると推定されます。

もし、その鋭利な角で消化管を傷つけて重篤な健康被害を起こすことがない新しい錠剤包装シートを適用するなら、それはとても有効な医療費削減対策となるでしょう。

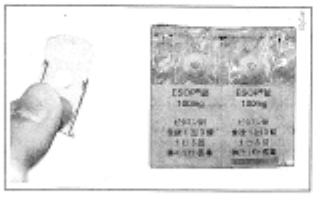
その新しい包装シートが、ＥＳＯＰ（Ｅａｓｙ Ｓｅａｌ Ｏｐｅｎ Ｐａｃｋ）です。軟らかい樹脂素材で手指や消化管を傷付けない透明フィルムの包装です。薬名表示や錠剤が確認しやすく、弱い力でも取り出せる構造で薬をしっかり保護します＝写真。

今後増加する高齢者数と増大する医療給付費および介護給付費。「医療費２０２５年問題」の対策として、国民負担の増加や給付の引き下げ対策だけでは限度があります。医療費を削減するためには、病気の予防や早期発見・治療と共に確実に防止できる事故には抜本的対策を実施し、ムダな受診・治療を抑制することが必須です。

このたび、誤飲事故の抜本的対策となる新包装ＥＳＯＰを普及するために、意見交換の場「ＥＳＯＰ研究会」を立ち上げました。

夢の包装で、日本を、世界を変えましょう！

（キム・ヨンエ、大阪市生野区）



【メモ】ＥＳＯＰ研究会への参加希望者は、入会を希望するかどうか、名前、電子メールアドレス、ＰＴＰをシートごと飲み込んだ経験がある本人や家族、知人がいる場合はその旨を明記の上、ファクス０６（６４７６）５５７３へ。ＥＳＯＰの詳細な情報はホームページ（http://www.morimoto-iyaku.jp/esop）で見られる。

この欄に対する感想（４００字以内）をお寄せください。採用、掲載分には図書カードをプレゼントします。

『澪標』編集部